

押し花作りが介護老人保健施設入所者の意欲を回復させた事例

奥山 緑

医療法人社団淡路平成会 東浦平成病院 淡路市久留麻 1867

Motivation Recovery of a Female Elderly Living in a Long-Term Care Health Facility by Making Pressed Flower Art

Midori Okuyama

Higashiura Heisei Hospital, 1867, Kuruma, Awaji-city

Keywords: horticultural therapy, pressed flower, older people

キーワード: 園芸療法, 押し花

要 旨

症例は自宅で一人暮らしをしながら、病院併設の通所リハビリテーション（以下デイケア）を利用していたが、2017年12月、独居生活に困難が生じたことから、病院併設の介護老人保健施設に入所した。他者との交流も少なく、部屋に引きこもりがちであったため、活動性低下予防、認知症予防を目的として、2018年4月より園芸療法士による介入を週に1回程度の頻度で開始したところ、押し花の色紙制作を通して意欲の回復がみられたので報告する。

倫理的配慮

症例本人に対しては口頭および書面で承諾を得ており、当施設の倫理委員会の許可を得ている。

施設概要

兵庫県内の病院に併設された介護老人保健施設（以下老健）。各階20名で定員100名、全室個室。6階建てのうち、2階から6階までを老健として利用。5階と6階は認知症専門階。入所者の要介護度1～5（平均3.71、2019年8月末現在）。入所に伴う活動性低下の予防が共通課題。

症例の様子（初期評価）

A氏89歳女性（2019年時）。2017年12月に自宅で足首を捻り右足関節外顆骨折を受傷し、ギブス固定。自宅での自立生活が困難となり緊急的にショートステイを利用。その後、本人の希望により本施設に入所となる（同年同月）。他者との交流も少なく、部屋に引きこもりがちであったので、活動性低下と認知症の予防のため、2018年4月より園芸療法介入開始。アセスメントを兼ねた試行園芸後、2018年6月より押し花の色紙制作に意欲的に取り組む。

健康状態

慢性心不全、鉄欠乏性貧血があり、服薬と療養食にて経過観察中。

心身機能・身体構造

両下肢筋力低下による転倒リスクがあり、独居生活が困難。トイレ動作や車椅子の自操などの体動時に少し動くと息苦しさの訴えあり。加齢と喪失感による意欲低下あり。改定長谷川式簡易知能評価スケール（Hasegawa dementia rating scale-revised : HDS-R）は、30点/30点（2019年5月）であり、認知機能は正常。手指の巧緻性は高い。

活動

日常生活活動（activities of daily living : ADL）は車椅子自操、トイレ動作自立。入浴・衣類着脱は一部介助。排泄は自立だが、時折間に合わず失禁あり。要介護度 : I, Barthel Index : 70/100（2019年5月）。

老健での理学療法士（以下PT）、言語聴覚士（以下ST）、園芸療法士（以下HT）による集団でのリハビリテーション（以下リハビリ）（1回/週）、作業療法士（以下OT）、PT、STいずれかによる個別でのリハビリ（1回/週）実施。部屋ではラジオを聞く、聖書を読む、読書をするなどして過ごす。手紙で友人との交流あり。携帯電話で家人と近況報告を行う。

参加

介護職員による声掛けで塗り絵、季節のレクリエーション、誕生日会などに参加。ホールで他の入所者と過ごすことはほとんど無く、他者とのコミュニケーションの機会は少なかった。2018年11月末に3階から2階へ転

受付 2020年5月14日 受理 2020年10月30日

室。その後、1日2回の洗濯物たたみを手伝う。家人の送迎により教会へ通う(2~3回/年)ことが楽しみだが回数についてはやや不満あり。HTによる園芸を楽しみにしている。

環境因子

家人は遠方在住のため、面会は年に2~3回。牧師が月1回、面会。

個人因子

5人兄弟姉妹の長女。22歳で結婚。2人の息子の母親。31年前、夫の退職後に夫の趣味であるサツキ盆栽が楽しめる場所として兵庫県B市へ移住。移住前にちぎり絵の講師免許を取得し、移住先で教室や作品展を開催。孫と10年同居後、2014年より夫が他界し、独居。当施設入所前までは、デイケアを(3回/週)利用。過去には手芸が趣味で、ちぎり絵講師経験がある。花の種類や栽培方法に詳しく、試行園芸時の押し花では高い表現力を見せた。

主観的次元

独居生活への不安から現施設入所の継続を希望。試行園芸当時は、何をするにも無気力。押し花を勧めてもらった時は「何かやることがあってよかったと思った。施設内では話し相手が居ないことがストレスであった」と当時は振り返った。

試行園芸

2018年4~6月に7回実施。屋上庭園での花鑑賞、モミジ盆栽の剪定と押し葉の制作等を通して初期評価を行った。

統合と解釈

症例は、独居生活による意欲低下や慢性心不全により活動の制限がある一方で手指の巧緻性、表現力に高い能力を持つなどプラスの機能がある。

焦点化

課題では、入所による活動性低下、加齢と喪失感による意欲低下に、プラスの機能では、手指の巧緻性の高さ、表現力の高さ、1人で過ごす時間を好む性格、ちぎり絵の講師経験に注目した。部屋にて実施可能で、他者から評価される作品づくりの機会として押し花の色紙作成により離床時間の増加につなげたいと考えた。

長期目標(6か月)

感性を發揮して自分らしさを表現することができ、日々明るく過ごすことができる。

短期目標(3か月)

- ①離床時間が1日30分程度増加する。
- ②創作活動を通じて、今の自分にできることを再認識し、自分らしさを感じられる。

目標達成をはかる評価手法

長期目標：発言記録、作品制作時間、認知症高齢者の生活の質尺度(quality of life:以下QOL-D)(症例は認知症で該当しないが、特に「自分らしさの表現」に関する質問(9問)が利用できると考え使用した)

短期目標：発言記録、淡路式園芸療法評価表(Awaji horticultural therapy assessment sheet:以下AHTAS)(豊田・山根2009)、作品制作時間(作品ごとに自己申告とした)

園芸療法計画とリスク管理

押し花の色紙作り(20~40分程度の活動)を週1回行うことで離床時間を確保した。活動を行う日や時間帯については、施設の生活スケジュールや症例の様子見て、適宜、声を掛けて実施した。美しい植物材料による快感創出とストレス軽減、課題遂行による脳の賦活による認知症予防をねらいとした。屋外に出る際にはリスク管理として、気温や滞在時間に配慮した。

方法

2018年6月から2019年9月までの15か月間に週に1回を目安として20分から40分程度の介入を68回行った。介入当初は症例と共に施設内にて花材の花を摘み取り、花を押し、乾燥までの管理、色紙に貼るまでの一連の作業を計画した。しかし、症例が時間を掛けて作業することを希望したため、HTが施設内外で採取して制作した花材を提供し、症例が自室で好きな時間に創作を行い、完成報告を受けるとHTが訪室し、共に鑑賞する時間を持つことにした。他に色紙、花材、水のり、竹串を提供した。介入から8か月後の2019年2月にリハビリ外来の待合室に色紙額を設置して作品発表の場を提供した。

結果および考察

1) 作品

作品の1作目は押し花の花材を「なんとなく並べてみた」と発言し、花材が重ならないように構成。3作目(介入31日後)は花びらを重ねて貼り合わせ、芯には花びらを細かくもみほぐし花芯にして立体感を出した。7作目(介入134日後)では小さな葉を多く寄せて貼ることで花のようにデザインして個性的な作品を完成させた。12作目(介入341日後)は動きのある葉や蔓、小花を使用し華やかな作品となる。16作品以降は見る側を意識して季節を先取りした作品を制作。19作目から23作目までは青いモミジを主にした作品を制作。色紙の種類を通常の色紙サイズより小さいミニ色紙や短冊、少し大きい4号サイズの使用をし、作品の幅が広がった。20作目(介入367日後)は完成した作品を実習生にプレゼントするために制作。27作目(介入427日後)には他者から持ち込まれた花材を使用した作品を制作して、作品を通じての交流も始めた。自身の押し花の作品に補助的に和紙の使用を開始。もう制作はしないと決めていたちぎり絵を再び始め、その作品をプレゼントするなど押し花以外の創作活動に広がった。以降、押し花の作品の写真を印刷した紙を便せんとして手紙を出すことを楽しんでいる。

2) 評価尺度

AHTAS:初期から項目「意欲」「思考(期待感)」「満足」すべてにおいて最高点3を維持して安定。

作品数：27 作品（2018 年 6 月～2019 年 9 月）
作品制作時間：260 時間 30 分（自己申告時間の合計）
発言記録：次作への希望花材について、押し花の花材の鑑賞時の際には常に前向きな発言あり。

3) 活動の様子

介入開始時から活動には前向きな姿勢で取り組んだ。1 作目から高い表現力を見せたが、作品制作毎に工夫し、花材を重ねて張る、重ねる部分と余白の部分も作り対比での表現をする等、完成度をあげた。次回に希望する花材の名前を幾つかあげるなど積極的な姿勢がみられた。過去のちぎり絵制作にも色紙を使用していたため、押し花の色紙制作の際にも構図の検討などにその技法が生かされた。ちぎり絵を再度行うのではなく、新しい事への挑戦としての押し花の作品制作が新たな気持ちで取り組めたことがよい結果を生んだと思われる。部屋を訪れる医師や看護師、職員等、顔見知りで信頼している人からの作品評価をととても喜んだ。

介入から 6 か月を過ぎた 7 作目頃からは、自発性が高まり、季節を感じる草花の採取のため屋外へ行くことを希望したり、ホールの花瓶に生けてある花を確保したり、他の職員からの提供を受けるなどして花材を自ら確保するようになった。現在は押し花の色紙制作以外に押し花の花材作りにも取り組む。

作品の写真を印刷して渡すと、写真の空白部分に文を書いて便せんにして友人に現況報告を始めた。よい近況報告ができており、家人の面会が少ない症例にとって、社会との結びつきを維持することにつながっている。

4) 短期目標について

①離床時間：介入時間は 32.5 時間、制作時間は 302.5 時間（27 作品制作）、介入時間と制作時間の合計は 15 か月で 335 時間となった。これは、1 か月あたりでは 22.3 時間（335 時間/15 か月）、1 日あたりでは 45 分（22.3 時間/30 日×60 分=44.6 分）の増加になる。全身持久力の低下している障害老人では、「座っているだけ」あるいは「座って作業する」程度の離床でも、現在の離床時間に加えて月平均で 5 時間前後離床が増加すれば、全身持久力が増進したと考えられる（進藤，1988）。症例の場合、当初は、1 日あたり 30 分程度の離床時間増加を目標としていたので 45 分の増加は目標以上に達成できており、かつ、この離床時間は、全身持久力の向上にも役立ったと考えられる。

②自分らしさの表現

AHTAS の中の「意欲」「満足」に注目。初回から最高点 3 を維持して安定。花材提供時の発言や作品完成時の解説の際の発言から評価した。作品のオリジナル性も評価した。

5) 長期目標について

介入前の部屋には塗り絵が飾られている程度であったが、以前制作したちぎり絵の額、押し花の色紙額、園芸療法の集団の介入で制作したクラフトを季節ごとに入れ替えて飾り、自身の作品で部屋を飾ることを楽しむようになった。また、QOL-D で、「自分らしさの表現」に関する質問の得点合計は、28 点から 44 点（相談員評価）となり、16 点増加した。介入時の症例の様子から、「自分らしさの表現」の目標点は 45/48 点と設定したので、44/45=97.8%達成したと考えられる。

症例は、施設のアセスメントにも症例の主訴・要望として「園芸（療法の時間）が楽しみです」との記載があるように、現在は園芸療法を楽しみにしている。

「私、元の私に戻った。一人暮らしで以前は何をするにも意欲がなかったの」「押し花があるから元気でいられる」といった発言にみられるように、日々の生活の中での目標として押し花制作を位置づけている。押し花制作は、以前行っていたちぎり絵経験を活かすことができ、かつ、押し花の花材は本人にとって利用経験がない新しい素材であったために新しいものを扱うことへの挑戦が新鮮な気持ちで取り組めるものとなった。

完成した作品が人から評価されることや、額を設置したことにより、定期的に作品の発表を行って主役になれる場が復活したことが意欲回復につながり、自分らしく明るく過ごすことが出来ていると思われる。

今後の展開・展望

15 か月の制作で作品も 27 枚となった。今後も症例が希望する限り、押し花の色紙作りを継続予定である。高齢者が意欲を持ち続けることが生活の活性化へつなげると考えられるため、作品を共に鑑賞し、喜び、考えることで次作への意欲へとつなげていきたい。

謝辞

症例をはじめ、そのご家族様、施設関係者様、老健職員の皆様に心から感謝申し上げます。

引用文献

豊田正博・山根 寛：淡路式園芸療法評価表（AHTAS）と既存の評価尺度による検証。京都大学医学部保健学科紀要健康科学 5:29-35, 2009
進藤伸一：重度障害老人の全身持久力に及ぼす離床の影響。理学療法と作業療法 22(12): 827-830, 1988

表1. 作品の変化と発言記録

作品番号 制作年月 タイトル(花材)	作品写真	特徴 発言記録
1 2018年6月 四つ葉のクローバー (クローバー ヘデラ デルフィニューム)		花材を重ねないように 構成 神様がこれをやりなさい と言っていると思う事に してる
3 2018年7月 あじさい (アジサイの花 アジサイの葉)		花材を重ねたり、中央 のツボミの部分表現 するために、花びらをハ サミで細かくカットして 表現 この色合いが良いで しょう？細かく切るとそ れらしく見えるでしょう
7 2018年11月 晩秋 (ドウダンツツジ サクラの葉 マツの葉 他)		ドウダンツツジの葉を花 のように見立てる 考えている時がすごい 脳トレよ
12 2019年4月 春のなごり (カイドウ パンジー ノースポール 他)		自身で花や葉を押し花 に加工して花材を準備。 見てもらう事を意識 無気力だったけど押し 花に会って蘇ったのよ。 これがあるから元気で いられる
20 2019年6月 大空をバックに 夏モミジ (カエデ)		実習にきた学生さんに プレゼントするために制 作。完成した作品をプレ ゼントをすることを楽し む。 花の命を大事にできる のがうれしい 押し花が生き甲斐なの